

同窓会会長 大嶋 裕

今回の会報には本学の理事長に就任された大村達彌氏のご挨拶を掲載させていただきました。新たな理事長を迎えました。新たな理事長を迎え、心機一転、本学の発展に寄与していただくことを切に願います。次第です。

本学同窓会も会報を始めとして、ホームページを活用し



窓会ホームページをご利用
ただくようお願い致します。



つるみキャンパス（創立時）

ホームページは、パソコン向けと携帯電話向けの2つを用意させていた দিয়েおります。(アドレスは下記参照)

また、同窓会事務局へのご連絡は従来通り電話、ファッ

第 41 号

発行
横浜商科大学
同窓会
TEL 045-583-9031
<http://www.shodai-ob.com/index.html>
印刷
(有)サン・プリンティング
TEL 03-3750-6633



最近のつるみキャンパス

クス、ホームページで承ります。
事情をご理解いただき、ご
協力をお願い致します。
会員の皆さまのますますの
ご活躍とご健勝を祈念申し上
げます。

ホームページアドレス

パソコン用

<http://www.shodai-ob.com/>

携帯電話用

<http://hp.did.ne.jp/shodai-dousou/>

同窓会 e-mail

dousou@shodai.ac.jp

電話・ファックス番号

045-583-9031 (直通)
事務局 (月、火、木、金の10時～16時半)

理事長就任にあたり

理事長 大村 達 彌



理事長の大村達彌でございます。今年3月、30年余勤務した慶應義塾大学経済学部を退職し、4月28日日本学理事長に就任いたしました。この度は会報のご紙面を借りて同窓会の皆さまにご挨拶できる機会を与えていただき大変ありがとうございます。同窓会からは大学へ毎年多くのご支援、ご援助をいただいております。日頃の多方面にわたるご協力には大変感謝いたしております。就任から日も浅いこともあり、同窓会の皆さま方との交流の機会はまだまだ十分とは言えないことは申し訳なく思っておりますが、大学人としての経験に加え、公務員時代の

管理職経験をも生かして職務に励んでゆく所存でございます。ですので、前理事長同様今後とも本学の発展のためお力添えをいただきたく、ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

申すまでもなく、同窓会は大学創立から10年余を経た1976年の発足であり、以来大学の歴史と共に歩んできました。今年卒業生の累計は19000名余に到達しており、4年後の創立50年には2万名の大会に乗るはずです。また同窓会会報は同窓会設立8年目の1984年11月に創刊されました。第1号には当時の松本武雄学長はじめ金子会長・大嶋副会長も寄稿されており、拝見しますと、皆様のご苦勞が伝わって来ますと同時に、将来を熱く語る雰囲気を読み取れて感銘いたします。その後皆様のご努力

により会報は回を重ね、本学の歩みを映す歴史の記録として、また、同窓生皆様の各界での活躍を伝える場として機能してきましたことを私も誇りに思う次第です。因みに、会報創刊の年は、育友会発足の年でもあります。

本学は、1966年の短大創立に続き、68年には4年制大学に移行、初めは1学科で入学定員100名でしたが70年には定員200名になりました。74年には3学科制へと発展、82年には定員が300名となり今日に至っています。その背景には全国的な大學生の数の増大という流れがあり、それに乗る形で創立16年目にして定員は3倍となりました。加えて、入学者数そのものはその後も増加し、在籍総数は2002年にピークに達して、3600名を超える規模となりました。40周年記念に出版された「横浜商科大学40年のあゆみ」(2006年9月刊)では、本学の歴史が10年区切りで整理されています。建学直後の「苦難の10年」(63年～73年)を経て迎

えた「充実発展の10年」(74年～84年)で、300名体制を実現、さらなる「第2の充実発展」(85年～94年)、「第3の充実発展」(95年～06年)の20年では、学生を多数採って財政的基盤をしっかりと固め、95年のみどりキャンパス開校や2000年の総合グラウンドとクラブハウス完成を実現させました。

では50周年に向けてのこの10年は、どのような10年になるのでしょうか。大學生の数が減少に転じる中で、私学の競争は激しさを増しています。そうしたことを背景に、本学への志願者数は2000年頃から顕著に減少傾向を見せ、本年の在籍総数はピーク時の丁度3分の1にすぎません。本学は少子化と競争の試練を乗り越えるべく、指定校制導入をはじめ様々な入試制度改革や教育改革を図ってきたものの、残念ながら逆風を跳ね返すには至っていないのが現状です。2年前には再生検討会議による本学再生の提言も行われましたが、それを実現させるための推進力であ

る財政的裏付けに不安があります。したがって私の就任後の主な仕事は、本学再生のための基礎力を回復させるための諸施策を立案し実施に移すことです。新執行部は目的達成のために一丸となり、理事長・学長・学部長間の緊密な連携を保って本学の力を再び蘇らせるべく努力する所存です。つきましては、どうか同窓会の皆様のご理解とご支援を引き続き賜りますようお願いする次第です。



大学だより

大学朝市で「商売」学習

横浜商科大・月1回 千人以上訪れ好評

横浜鶴見区の横浜商科大学で月1回、朝市が開かれている。地元の人に大学に親しんでもらい店には対面販売の良さを見直してもらう。学生にとつては生きた勉強になる。キャンパス発の朝市は可能性が広がり、「いずれは横浜を代表する朝市に育てたい」と関係者は、はりきっている。

朝市の名は「濱の梁山泊」。3回目となった6月24日は、キャンパス中庭に、地元の商店街や横須賀市など県内各地、東京から合わせて20店以上が出店し、千人以上が集まるにぎわいを見せた。

地域の人と交流も

「キャンパスを地域の人が交流できる場所にしたかった」と同大商学部佐々徹教授(46)が、横浜市内で数々の朝市を手がけるグループ「眼力舎」に呼びかけて今年から始まったものである。

経営コンサルタントで眼力舎代表の松浦孝司さん(47)らが、チラシや、近隣の幼稚園や保育園に綿菓子無料券を配るなどして集客をはかったこともあり、初回の3月、次の5月とも千人以上が訪れ、好評だった。そこで月1回、定例化することになった。

キャンパスならではの特徴を上手に生かす。会場では大道芸などのイベントを実施。中央のステージを囲むように店を配置し、「子どもがステージで遊ぶ姿を確認しながら買い物できる。他の朝市会場ではあまりないでしょ」と佐々教授。ゼミの学生らも運営に関わり、現場で経営学を学べる。卒業生が出店したいというオファーもあるという。

松浦さんは「会話しながら買い物する楽しさを知ってほしいし、商売の原点である対面販売の良さをもう一度見直してほしい。これから店を出したい人のトライアルの場にもしたい。」

「ここどううまくいき、商店街の空き店舗などに開店する人が出てくれば活性化にもつながる」と期待する。

佐々教授は「キャンパスが楽しい思い出を作る場になってくれたらうれしいし、将来の商業者を育てる場にもしたい。可能性は広がります」と話している。

問い合わせは、眼力舎

(080・5375・5773)へ。

朝日新聞より

横浜商科大学朝市「濱の梁山泊」開催

ひとつひとつ階段を上る地域・産業連携事業

本学の産学連携事業や地域とのつながりを語る時、欠かせないものとして、佐々徹教授(経営情報学科)が立ち上げた講義「野毛まちなかキャンパス」や「中華街の世界」、そして課外では佐々ゼミが中心となり実施した、「野毛大道芸」や「大口商店街 おおぐちチビ子フェスティバル」などが挙げられます。佐々ゼミでは地域イベントを支え、地元地域の活性化に協力してきたが、今回、大口商店街店主や鶴見をはじめ座間、戸塚、横須賀、藤沢など、本学の特別講義を担当する商店主が「商」の原点を追求するために立ち上げた「眼力舎」とともに、大学初の朝市「濱の梁山泊」を開催しました。

これはその場で調理したものを提供するなどの公共スペースでは通常困難な出店について、アジア、ヨーロッパの市場のような「楽しい朝市」を目指したイベントです。将来的には地元団体や学校、部活動などの参加も促し、本学との交流促進を図っていく予定です。



横浜商科大学報より



観光振興

担い手育成

県、横浜商大と連携

神奈川県は横浜商科大学と連携し、県内の観光振興の担い手を育成する事業を始める。約10人の参加者を募り、8月から座学や実地研修を実施し修了時に観光プランをまとめる。県観光課は「自治体や観光業者、非営利組織（NPO）などを巻き込み地域の観光を盛り上げるプロデューサーを育てたい」としている。

「観光まちづくり塾」は商店街関係者や観光事業に携わる企業、NPOなどから幅広く参加者を公募する。8月下旬から9月中旬まで、同大つるみキャンパスで基礎講座を開く。観光学科の教授らが「食と観光まちづくり」や「地域産品の開発・流通」「ウェブ活用と情報発信」などのテーマで講義する。

10月には応用講座に移り、横須賀市と真鶴町で8日間、実地研修を実施する。地元の関係者らが協力し、観光振興策について考える。

受講者には来年度に自身が取り組む観光プランの作成を促し1月に発表してもらう。修了者を県が「観光まちづくりプロデューサー」に認定し、人材や企業を紹介するなど活動を側面支援する。というものである。

日本経済新聞より

文化と商い

野毛が歩んだ150年

商店主と商大講師共催 刊行

横浜市の桜木町駅南西部に広がる飲食店街・野毛の魅力を知ってもらおうと、「野毛地区街づくり会」と横浜商科大が「横浜・野毛の商いと文化」を出版した。野毛で生まれ育った商店主らが語る街の成り立ちや大道芸を通じた街おこしの取り組みなどが紹介され、一読すれば個性豊かな歴史や文化、商売の様子が感じとれる。

この本には、野毛の寝具店やとんかつ屋の経営者、郷土史家ら15人ほどが登場。約150年前の横浜開港から現在までの野毛の盛衰を語っている。

小さな漁村だった野毛は1872年の新橋ー横浜（現・桜木町）間の鉄道開通で発展。戦後は焼け野原に闇市ができ、買い物客でごった返した。1946〜47年には美空ひばりが舞台に立った横浜国際劇場などの大劇場や映画館、芝居小屋が次々に建てられた。ところが、50〜60年代には鉄道路線の改廃から桜木町駅の乗降客

が減少。活気を失った街を立て直すため86年に「野毛大道芸」が始まり、今では街のメインイベントになった。大道芸の街が気に入って2年前に開業した料理店主ら若手経営者も紹介されている。

本に登場する語り部は、野毛地区街づくり会と横浜商科大が共催で昨年度に開いた公開講座の講師たちだ。その記録をもとに同大非常勤講師の根本英明さん（53）らが1年近くかけて編集した。

7歳のときから野毛で暮らし、祖父の代からの屋外広告業を営む同会の諏訪恵一理事（70）は「この本を通じて若い人たちが野毛の歴史や魅力を知り、にぎやかさを取り戻してくれたらうれしい」と話す。

四六判276ページ。2千部を印刷し、横浜市の書店を中心に販売を始めた。1575円（税込）。問い合わせは横浜商大総務部（045・571・3901）へ。

朝日新聞より

インターネットがもたらす新たな交流

ソーシャルメディア・スマートフォンによって変わる私たちの生活

講演者

金森孝浩先生（本学非常勤講師）

経歴：

2008年3月 横浜商科大学商学部経営情報学科 卒業
2011年3月 横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科博士前期課程修了修士（経営学）
2011年4月 横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科博士後期課程入学（～現在）
2011年4月 横浜商科大学商学部 非常勤講師（～現在）

開催日時

2012年10月27日（土）
講演 13時30分（入場 13時～）

開催場所

横浜商科大学つるみキャンパス
1号館3階131教室

問合せ先

横浜商科大学図書館
〒230-8577 横浜市鶴見区東寺尾 4-11-1

TEL：045-583-9057 e-mail：library@shodai.ac.jp

飯山祭
期間中!!

支部だより

福島支部

支部長 5回生 片野 博

2011年3月11日、東北地方を襲った東日本大震災は地震、津波による未曾有の被害をもたらし、多くの尊い命と人々の暮らしを奪い去りました。加えて福島県は、原子力災害さらに風評被害という人類史上まれにみる多重の被害の中に置かれています。

浜通り地方（太平洋側）における津波の爪痕は深く、特に原子力発電所の周辺では復旧の目処さえ立っていません。中通り地方では地震の被害が甚大な所もあり、会津地方は風評被害に苦しめられています。この風評被害は、福島県全体で深刻化し、かつ長期化しており、県内の人々、そして、あらゆる産業に影響を及ぼし、地域の活力を奪っています。福島復興は、決して容易な道ではなく、幾多の困難が待ち受けていることと思います。

同窓会におかれましては被

災者に対し早々に見舞金の配慮を頂き誠に有難うございました。これからも東北地方、そして福島県の応援をお願いいたします。

静岡支部

支部長 4回生 山崎 成

平成10年6月に本部関係者のご協力で静岡支部を設立して早や13年がたち、現在に至っております。卒業生も県内出身者は700余名となりました。設立当初は20名位の出席者が毎年続きましたが、ここ10年位は10名前後でやや出席率も悪いようです。ここ数年は毎回大学の先生をご招待して講演会などの企画を立てておりますが、出席人数の向上にはもう一歩結びつかないようです。しかし2年に1人位は新しい人が出席してくるので、延べ人数は全体的には少しずつではありますが増えつつあります。

又、役員3人で3年前から支部総会の前、5月頃にご迷惑かもしれませんが地域を決めて一部の会員宅を訪問し、普及活動に努めております。

会員の方にお会いできるのは30%位ですが、皆さん快く対応してくださり、短い時間ではありますがですが良きコミュニケーションができたと思っております。次回訪問した時は宜しく願います。

支部活動に協力的で関心を持つている会員は全体で30名位ですが、支部総会の出席者においては、少人数とはいえ職業、年齢も異なりますが県内出身者、卒業生同士との事で初対面でも何の抵抗もなく会話を楽しんでいる様子です。

今後、この支部総会に一人でも多くの会員に出席いただき、良き卒業生との出会いを



望みます。また、商大同窓生の輪が広がれば幸いに思いますが、微力ながら今後ともその架け橋となるよう頑張るつもりです。

どうか宜しくお願い申し上げます。

四国支部

支部長 11回生 宇都宮 吉彦

今回の四国支部の総会は同窓会会員山本氏経営の徳島県阿南市ロイヤルガーデンホテルでの開催となった。総会終了後、参加者は支部4名、宮原名誉教授ご夫妻、本部2名、小森会員のご家族の合計11名で徳島特産のすだちを使った郷土料理をご馳走になり、久しぶりに賑やかな雰囲気の中で懇親会となった。翌日は、太龍寺（四国八十八箇所21番札所 西の高野山）を参拝し、太龍寺ロープウェイ（西日本最長）より山越えの大パノラマを体感し皆さん大満足されていきました。昼から駆け足で徳島名物の徳島ラーメンを食べ、徳島阿南市の観光を満喫して解散となりました。

四国支部会員の一人でも多

くの同窓生に参加してもらえよう、魅力ある企画もしていこうと思います。年に1回の総会案内の返信葉書の備考欄にでも、近況報告でもしていただければ、幸いです。

総会出欠返信用備考欄記載の文書を紹介いたします。

（東京出張の際、24年ぶりにすっかり様変わりした学舎の前を通りました。現役学生の姿を見て涙がでました。横浜商大よ永遠に！）



教員支部

支部長 18回生 和内 広行

今年の教職研修会は8月10日（金）に川崎市立商業高校で一日開催いたしました。午



前9時からのオリエンテーションでは開催校校長あいさつ、川商紹介のDVD視聴、4年生による6月の教育実習の報告などを行いました。その後、3年生による模擬授業では、実際の教育現場である教室において、川商の現役の生徒にも協力していただき（教室に座っていただき）、より臨場感を出しておこなわれました。

学生諸君は来年の教育実習の事前学習として一生懸命取り組んでいました。

午後からは教員支部の先生方による「ホームルーム運営について」や「定時制教育の

現状について」などの講義と学生たちによる研修のまとめをおこないました。

なお、今年から文部科学省の方針により4年生が教育実習を終了した後の指導として、「教育実践演習」をおこなうことになっていきます。それに伴い、12月に湯河原学術研修所で教員支部の先生方とともに実施する予定になっています。

新潟支部

支部長 18回生 吉井 直樹
会員の皆様、いつもお世話になっております。横浜商科大学同窓会新潟支部でございます。

日本海側、中国、韓国、ロシアに面し、関東より新幹線で2時間ほどで着きます新潟県、米どころ、酒どころ日本の幸満載で、日本人の口腹を満たす地でございます。

新潟支部は本年12年目を迎えます、ますます活動を活発に推進しています。と申しあげたいところですが、今のところアクティブに活動しているのは役員含め7、8名で運営しているのが現状です。ですが、

最近支部総会への出欠確認の返信も増え、近況を知らせていただける会員の方々も多くなってきました。いずれお会いして賑やかに交流会でもできたらと思っています。各支部の皆様ともぜひ新潟に足を運びいただき美味しいお酒と一緒に楽しめたらと思います。ぜひその際にはお声掛けください。今後とも大学とともに新潟支部をよろしくお願いいたします。



宮城支部

支部長 8回生 小松 智
平成23年3月11日14時46分
マグニチュード9の宮城県沖を

震源とする東日本大震災に見舞われました。想像を絶する揺れが約3分間も続きその後大津波警報が発令されました。

当日は、勤務先であります松島のホテルにチェックインのお客様が70名様位いらっしゃいました。マイクロバス・ワゴン車にお乗り頂き高台に避難誘導をいたしました。けが人等、お一人もなく又従業員も全員無事でした。（御家族等は被災された方もおります。）ホテルは幸いにも津波から免れ本年7月14日にリニューアルオープンし連日（満員）多くのお客様に御利用頂いております。

震災に対しまして大学・同窓会・有志の皆様より御見舞金を頂戴した他、四国支部の宇都宮支部長には遠路はるばるお越しいただき支援物資・支援車を頂戴した事、ここに御礼申し上げます。宮城支部は震災の影響で昨年度は支部総会を開催しておらず本年は9月22日に開催致しました。次回開催の時は一人でも多くの参加をお待ちしております。

韓国支部

支部長 20回生 車 炳輝
横浜商科大学同窓会会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

松本理事長、大嶋同窓会長と一緒に平成22年12月19日に韓国支部が創立され、いつの間にか2年が経っております。韓国支部での会は本校の同窓会事務局より愛情のこもったご支援とご指導を頂き、ごく少人数でありながら3月、6月、9月、12月の最終の土曜日に同窓会の事務室に集まりまして、もう6回目になります。第7回目の臨時会議は9月21日でした。この間25期卒業生のジョンヘインさんは結婚をされ、お子さんが生まれました。6月23日はその子供が1歳になり同門らに参加した中、お祝いをしました。

現在本校を卒業した韓国の留学生同門らの総人数は39名です。その中、韓国へ帰国した同門は19名、日本で活動している同門は9名ですが、残りの11名の所在は把握されていない状況です。

もし同門の中で誰かご連絡をしていらっしゃる方がいれば韓国ソウル02(732)6560(同窓会事務室)の方にご連絡いただければ有難いと思います。

韓国支部会員の個人活動状況のお知らせです。

第9回卒業 車炳軒

(株)COSMO TRAVEL取締役社長

第9回卒業 崔炳奎

(株)GENERICS取締役社長

第9回卒業 鄭文植

(株)SEARUET取締役社長

第10回卒業 文在邇

(株)JOA TRAVEL 理事

第15回卒業 呉幸珍

(株)A&P CONSULTS 理事

第18回卒業 金應校

(株)JUNGWON E.N.G.理事長

第20回卒業 元義宰

(株)TRIADS PICTURES 室長

第20回卒業 李相晩

個人事業

第25回卒業 尹熙滿

(株)PANASONIC (APRO)に勤務

第25回卒業 李英宰

(株)PANASONIC KOREAに勤務

以上になります。

その他の会員は主婦とか個人事業などの活動をしております。

他支部に比べてまだまだ未熟ではございますが、これからも横浜商科大学卒業生として恥ずかしくない責任感のある社会人となり、韓国支部支部長として充実させていきたいと考えております。

長野支部

副支部長 5回生 小松稔

長野支部のある長野県は、本州の中心に位置し、日本では北海道、岩手、福島に次ぐ広さです。「信州」の呼び名で親しまれ、「日本の屋根」と言われており、標高2000m以上の3000m級の山々が連なる壮大な山岳地帯です。県庁所在地の長野市は「善光寺」松本市は「国宝・松本城」諏訪地方は県内最大の湖「諏訪湖」を有し、毎年行われる花火大会も有名です。歴史的、文化的な建造物や行事が今も尚、大切に保存されています。他にも安曇野や上高地、軽井沢といった風光明媚な場所を思い浮かべる方も多いでしょう。又、南ア

ルプスの麓、伊那、飯田地方も観光の名所です。都心からのアクセスも良く、身近に大自然を感じることができ、ため、四季を通じて多くの人が訪れます。

全国の会員の皆さん、この信州の大自然を満喫されるよう是非、一度お越し下さい。心よりお待ちしております。

マーケティング研究会支部

幹事 24回生 永田 寛治

宮原ゼミOB会を母体としてスタートしたマーケティング研究会支部は、今秋で2年になります。

年に1回開催される定期総会を、それぞれが実社会で培った経験や知識、情報を交換する場として、また出身ゼミを問わず幅広い世代の交流の場として、活性化させていきたいと思っています。

同窓会会報にて、私たちの研究会の設立を掲載していただいたことで、ゼミ外からの参加者を会員として迎えることができたことは、新たな人のつながり、輪の広がりを予感させる出来事として嬉しく



思います。「研究会」という堅苦しいイメージをなくして、マーケティングに感心をお持ちの方々に気軽に参加していただける会となるよう活動を続けてまいります。

支部総会と同時に催される研究発表、懇親会は、商大鶴見キャンパスで行われます。学生時代を思い出しつつ、いつもと違った週末のひとつときを、私たちとともに過ごしませんか。

剣道部支部

支部長 19回生 柴崎 雅治

わたしたち剣道部支部は、会員数約180名の剣道部の卒業生で構成する支部であります。

活動内容は、卒業生相互の交流を中心に現役学生への支援も行っております。特に、学生が加盟する緑区剣道連盟の審判講習会や各種学生大会への審判派遣など、青少年の剣道指導の手伝い、会員相互の剣道技能向上に資する活動として稽古会の実施などを定期的に実施しております。

今年は、緑区剣道連盟が主催する高校生の大会「緑友杯」に参画し、参加する高校生へ母校をアピールしたいと考えています。

また年々会員にも高段者が増えてきたので関東学生剣道連盟の卒業生で構成されるOB戦への参加も考えております。剣道部OB会と連携しながら今後とも大学、同窓会に協力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

広島支部

支部長 10回生 風呂 実雄
 去る9月8日(土)に広島市内の「しゃぶ禅広島店」に於いて第25回横浜商科大学同窓会広島支部総会を開催いたしました。

当日は大学より柴田学長、同窓会本部より西海様、四国支部より宇都宮支部長にご出席頂きました。滞りなく議事も進み無事支部総会を終える事が出来ました。その後の懇親会においては、出席者の現況や学生時代の懐かしい話等で盛り上がりながらも和やか



な時を過ごせました。中でも柴田学長より現在取り組んでおられる大学の改革及びこれから行われる試案を伺い卒業生の一人として感銘致しました。広島支部としては、今回の支部総会の出席者が5名(1名は二次会より)という現実を踏まえて、今後は広島支部の同窓生の現状把握と相互の連絡がとれるように活動の輪を拡げて行きたいと思えます。また11月に行われる横浜商科大学同窓会総会に出席し本部及び各支部ならびにそのほかの方々との交流を深めたいと思っています。

経営情報システム研究支部

支部長 10回生 滝口 猛
 経営情報システム研究支部の第5回支部総会を9月15日に鶴見駅西口「ルージン」において、本部からは大嶋会長に出席して頂き、当支部顧問の平澤名誉教授と支部会員11名の合わせて13名の参加者で開催しました。当日は平澤先生の75歳の誕生日でもあり、和やかな懇親会にもなりました。

関西支部

支部長 10回生 林 永年



平成23年12月3日(土)午後6時千日前「鳥よし」にて、関西支部総会を開催した。当日は本部から植木様に参加された。関西支部参加者は6名であった。

総会に先立ち、支部設立当初から支部運営を支えていただいた沖木副支部長(昭和48年卒)が9月に逝去されたので黙祷をささげた。

総会では、22年度の支部活動報告、会計報告及び23年度の支部活動予定、会計予算は、

出席者の総意によりいずれも承認された。続いて和田前支部長より、11月の本部総会の様子、活動報告、大学の現状などの報告がなされ、「長期間支部長をしたのでそろそろ代わってほしい。」と辞任の発言があり、審議の結果、林永年(昭和55年卒)が選任された。同時に、会計担当者も木村孝(平成2年卒)に代わった。

関西支部では、毎年12月の第1土曜日午後6時から支部総会を開催しています。関西支部会員の多数の出席を期待しています。

不動産支部

支部長 14回生 金澤 亨

平素は横浜商科大学ならびに、同窓会の方々にはご支援いただき深く感謝もうしあげます。

さて横浜商科大不動産会(横浜商大同窓会、不動産支部)も来年で設立10周年を迎えることとなり(2003年11月設立)その間2006年には、大学不動産連盟の正会員に当時の寺島会長、竹田幹

事長の尽力で加盟することができ、現在正会員12校(慶應、早稲田、明治、中央、青山、日本、法政、立教、同志社、上智、東洋)、準会員校1校(専修)オプザーバー校2校(明治学院、東海)という連盟の中で10番目の正会員校としても活躍が目ざましく成果も上がってきている状況です。また連盟理事会でも積極的に発言、東日本大震災被災地支援活動の1つとして、大変地味ではありますがベルマークを収集し被災地の学校にと持当校として、連盟15校が現在ベルマークの収集活動にとりくんでいるところです。

昨年の9月に、2代目支部長に就任して1年がたちますが、当会は30歳代の若手の会員が多く、その瞬発力と決断力には、感心させられるばかりです。そして、一人一人が建学の精神、安んじて事を託さるゝ人となれ、を念頭に会社経営に職場のリーダーとして活躍していることに大変頼もしく思います。



大変微力ではありますが、これからもいつそう情報交換会、会員相互の親睦会、不動産関連の勉強会等を充実し、会員の不動産関連事業の発展をめざしていきたいと思います。

ハンドボール部支部

支部長 5回生 滝上 徹

9月8日、現役の試合が群馬の上武大学であり応援に出かけてまいりました。我が商大は昨年の3部から4部に降格してしまい、この日は文教大学との対戦です。前半は互角の戦いで折り返しましたが後半7点差に離され、終盤3点差までに追いつきましたが残念ながら負けてしまいました。

た。現在、0勝1分2敗の成績ですがこれからの試合に期待しています。商大は今回を含め2度ほど4部以下に落ちたことがあります。必ず復活し勝ち上がって来たいです。全国の同窓生の皆様、また、ハンドボール部OBの皆様、是非、現役に熱いエールを送って下さい。よろしくお願い致します。

写真は試合後に杉本コーチ、現役と一緒に撮りました。顔は全員、前向きな好い面構えになっています。

群馬支部

支部長 8回生 鈴木 清照

今年の夏は、例年になく猛暑の日が長く、同窓会会員の方々におかれましては、暑さ対策に苦慮された方も多かった事とお察し申し上げます。

また、昨年の「東日本大震災」で被災された方々に、この紙面を持って改めてお見舞いを申しあげます。

そのような、自然環境の中におかれながらも、日々の社会活動で活躍されている、我横浜商科大学同窓生を思う

と、母校を誇りに思います。

さて、冒頭にも触れましたが、群馬県と言えば日本が一番暑い所と言うイメージが全国に伝わった今年の夏だったように感じます。

群馬県は県の形としては「鶴」が羽を広げて舞い降りた形をしていると言われています。その嘴が邑楽郡に位置し、利根川を渡れば埼玉県になり、茨城・栃木両県と接する地域に当たります。よくニュース等に報じられる館林市は隣にあたり、つつじの町」と言われていましたが、今では「全国一暑い町」として、有名になりつつあるようです。今年の夏は連日マスコミが押し寄せて報道していました。

私はサクランボの産地で有名な山形県寒河江市（さかえし）に高校まで住んでいました。商大卒業後、2度ほど転居・転職し、その後、群馬県邑楽郡千代田町に居を構え20年になります。

群馬での生活が始まり、右も左もわからなく落ち込みそうな時、心の拠り所は、大学

の恩師であり先輩であり同級生でした。

先輩からの勧めで支部を設立して10周年を迎えようとしています。

北関東唯一の支部として今後支部会員の為に母校を誇りとして、同窓会発展の為に支部活動を更に発展させていきたいと思っています。

会員各位のご協力を宜しくお願い申し上げます。

飯山会支部

支部長 1回生 榎田 悠一

飯山祭で第3回フリーマーケット開催！

日時 10月27日 朝10時～ 午後2時まで
みんな みんな 集合！

※出展の為の品物（なまもの食品以外のもの）を提供して下さい。
10月25日までに同窓会事務局へお願いします。

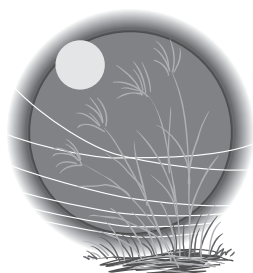
〈今後の支部総会予定〉

1. マーケティング研究会支部
10月13（土）14：00～18：30
鶴見キャンパス 223教室（予定）
2. 群馬支部
10月20（土）13：00～
高崎ワシントンホテルプラザ12F「銀座」
3. 長野支部
10月21日（日）13：30～
やま本店（長野駅歩15分）

〈編集後記〉

昨年、来日されたブータン国王の言葉が耳に残ります。「私達は、心の中に「人格」という名の竜を持っています。竜は、経験を食べて成長します。だから私達は日増しに強くなるのです。そして、その竜をコントロールして生きていくことが大切なのです。」と。人間だから心の中をコントロールできるはず。力と力の戦いは破壊しかないのですから…。

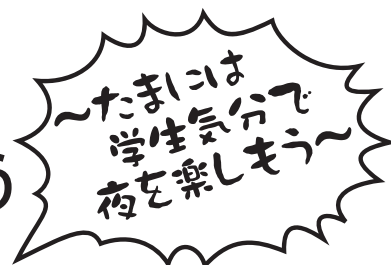
会報41号発行にあたり、多くの皆さまよりご協力をいただき、ありがとうございます。――紀――



第37回 同窓会定期総会

懇親会のご案内

友と先生と共に集い語ろう



日時：平成24年11月17日（土）午後6時より総会
午後7時より懇親会

場所：新横浜国際ホテル（南館）

TEL 045-473-1311

JR新横浜駅北口徒歩3分、市営地下鉄新横浜駅7番出口徒歩1分

- 議案：1) 23年度事業報告・決算報告
2) 24年度事業計画・予算案
3) 会長改選
4) 会計監査選挙
5) その他

会費：¥8,000（当日会場にてお願いします）**家族同伴大歓迎**

日頃より、同窓会活動に、ご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。
おかげさまで、当会も会員数19,500余名を数え、皆さま方、各方面で大活躍
されています。

さて、平成23年度定期総会を標記の通り開催いたします。
ご多用中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようご案
内申し上げます。

今年卒業された新会員の方は会費無料！

懇親会には教職員の方も多数出席されます。
昨年同様、景品等ご提供・寄附を受け付けておりますのでご協力お願いします。

宿泊希望の方は、同窓会事務局まで

TEL・FAX：045-583-9031

Email：dousou@shodai.ac.jp

http：//www.shodai-ob.com/

※第7回支部長会議は午後3時より同ホテルにて開催